

国語科学習指導案

東広島市立西条中学校

- 1 **日時・場所** 平成 25 年 6 月 24 日(月) 第 5 校時(13 時 20 分～14 時 10 分)
1 年 組教室
- 2 **対 象** 第 1 学年 組 39 名 (男子 21 名 女子 18 名 計 39 名)
- 3 **単 元 名** テキストに対する多様な解釈を受け入れ、自分の考えを形成しよう
主教材 『空中ブランコ乗りのキキ』 別役実 (『現代の国語 1』三省堂 2012)
副教材 『大きな木』 シェル・シルヴァスタイン・村上春樹訳(あすなろ書房 2010)

4 単元設定の理由

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領国語第 1 学年「C 読むこと」のオ「文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること」の能力の育成をねらいとして設定した。この能力を育成するにあたり、本単元の価値は次のとおりである。

主教材である『空中ブランコ乗りのキキ』は、文章表現が巧みで、登場人物の言動、情景の描き方、比喩表現などから登場人物の心情を想像しやすい作品である。「命」について対称的な考え方を持つ主人公のキキとその友達ロロの言動を、自分自身の価値観と重ね合わせることで、生きる意味を生徒に考えさせ、自分の物の見方や考え方を広くすることができる作品である。副教材である『大きな木』は、アメリカで 1964 年に出版されて以来 30 以上の言語に翻訳され、現代も読み継がれているロングセラーである。やさしい言葉で書かれており、物語の展開も単純かつ明瞭ではあるが、そこには喜びや希望と同時に、救いのない悲しみ、苦い毒といった、奥行きのある感情が込められている。二人の主要人物(与え続ける「木」と求め続ける「少年」)の言動を根拠に、テキストに対して多様な解釈を展開することができる作品である。

いずれも、作者が作品を書いた目的を推論したり、文章の叙述の細部と作者の述べようとしたことのつながりを検討する読みを引き出ししたりする学習にふさわしい作品である。単元の学習を通して、生徒が自分自身の読みや解釈を内省的にとらえ直す営みを行うことができると考える。

(2) 生徒観

本単元は、中学校入学後初めての文学教材である。生徒はこれまでも、本や文章を読んで考えたことを発表しあい、自分の考えを広げたり深めたりする学習を行ってきた。本単元実施に際し行った事前のアンケート調査の結果から、次のことが明らかになった。

「本や文章を読んで自分の考えを持つことができる」に肯定的な回答をした生徒は 76.9%であった。しかし、「本や文章を読んで考えたことを発表することができる」に肯定的な回答をした生徒は 53.8%、また、「他の人の意見を聞いて、自分の考えを広げたり深めたりすることができる」に肯定的な回答をした生徒は 66.7%であった。このことから、多くの生徒が、本や文章を読んで自分の考えを持つことはできつつあるが、それを発表することに苦手意識を持っていたり、他と交流することで自分の意見を広げたり深めたりする意識は十分ではないと考える。その原因は、文章を読んで自分の考えを持たせる指導はある程度できているが、自分の考えを形成する指導が十分ではないことにあると考える。

また、読書に関するアンケートで、「本を読むのは好きですか」という問いに、肯定的な回答をした生徒は、97.4%であり、読書好きな生徒が多いという結果が出た。一か月に 1 冊以上読書をする生徒は、94%であり(3 冊以上読書する生徒は 79%)で、読書の習慣はほぼ付いているといえる。しかし、読んだ本の内容について、友達や家族と話をしていますという生徒は 48.7%、国語の授業で、教材文の内容、登場人物の気持ちなど、本の内容を、友達と話し合うのが好きですと答えた生徒は 55.3%であ

った。いずれの結果も不十分で、読書活動の充実に向け、課題があることがはっきりした。

(3) 指導観

本単元では、単元を貫く言語活動として「読書レシピ作り」(読書案内)を設定した。「読書レシピ」の内容は「主な登場人物・あらすじ・作品の主題・感想」等である。「読書レシピ」を完成させる過程では、テキストに関して多様な解釈を展開し、物の見方や考え方を広くしながら、自分の考えの形成していくことが求められる。

「中学校学習指導要領解説国語編」には、『自分のものの見方や考え方を広くする』というのは、書き手の物の見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになったりするなど、読み手としてのものの見方や考え方をさらに広げていくことである。」とある。そこでその手立てとして、単元の中で、二つの特徴的な指導を行うこととした。

一つ目は「リテラチャーサークル」である。「リテラチャーサークル」は、「一つのテキストについて子ども達が小さなグループで一緒になって語り合うための機会」である。まず、副教材の『大きな木』で「リテラチャーサークル」を行い、それを『空中ブランコ乗りのキキ』の学習を進める枠組みとして機能させる。『大きな木』での「リテラチャーサークル」の経験が『空中ブランコ乗りのキキ』を読み、話し合う活動に取り組むうえで、積極的な姿勢を引き出し、効果的に自分の考えを形成することができるようにするのである。

二つめは、文章を読む視点を生徒に与えるために『空中ブランコ乗りのキキ』を読む13の視点⁽¹⁾を活用することである。「13の視点」の大きな内容は、①作品とあなたについて、②作品の中の重要な要素について、③作品についてのあなたの考え、④作者の工夫について、である。文章を読む視点を持つことで、生徒は作品に切り込みやすくなり「読書活動」を円滑に行えるようになると思う。

なお、テキストを読む際は、文章の中で必要だと思った部分に印を付したり、必要な部分を抜き書きしたりしながら読み進めたり、一冊の本を最後まで読む、大事な箇所を読む、多くの本に目を通すなどの様々な読み方を取り入れるようにする。これらが、疑問に思ったことを、確かめ・広げ・深めるなど、生徒の日常の読書活動の質を高めることにつながる。既習事項や創意工夫を生かして学習に取り組ませ、学習の楽しさを実感させたい。

5 単元の目標

- 目的や意図に応じて文章を読み、主題を的確にとらえて自分の物の見方や考え方を広くしようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】
- 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ自分の物の見方や考え方を広くすることができる。 【C読むこと オ】
- 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (イ)】

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介する言語活動を通じた指導(読書レシピ作り)		
○目的や意図に応じて文章を読み、主題を的確にとらえて自分の物の見方や考え方を広くしようとしている。	○文章に表れているものの見方や考え方をとらえ自分のものの見方や考え方を広くしている。(オ)	○文章を読んで意味のわからない語句を調べ、文脈上の意味を考えている。(イ(イ))

7 単元の指導と評価の計画 (全9時間)

次	時	学 習 内 容	評 価				
			関	読	言	評価規準	評価方法
一	1 (本時) 1 / 9	○単元の概要を知り、目標設定と学習計画の確認を行う。 ○読書活動① リテラチャーサークルⅠを行う。	○			・目的や意図に応じて文章を読み、主題を的確にとらえて自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。 (国語への関心・意欲・態度) ・文章に表れているものの見方や考え方をとらえ自分のものの見方や考え方を広くしている。(読む能力)	・発言の確認 ・ワークシート ・自己評価
二	2	○全文を通読し、内容に関して自分の考えを整理する。 『空中ブランコ乗りのキキ』を読む13の視点」に記入する。	○			・目的や意図に応じて文章を読み、主題を的確にとらえて自分のものの見方や考え方を広くしようとしている。 (国語への関心・意欲・態度)	・発言の確認 ・ワークシート ・自己評価
	3 ・ 4	○本文の内容について理解する。 ・人物関係図を作る ・「キキすごろく」を作りあらすじをまとめる。		◎		・文章に表れているものの見方や考え方をとらえ自分のものの見方や考え方を広くしている。(読む能力)	
	5 ・ 6	○読書活動② リテラチャーサークルⅡ キキの生き方について自分の考えを持つ。			○	・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意している。 (言語についての知識・理解・技能)	
	7	○読書活動③ 『空中ブランコ乗りのキキ』の読書レシピ(読書紹介)を作る。					
	8	○読書活動④ 自分のお気に入りの一冊の読書レシピを作る。					
三	9	○レシピの交流を行う。 学習を振り返り、「13の視点」に再度記入し自分の考えの変化を確認する。 学びの成果と課題を交流する。	○		◎	・目的や意図に応じて文章を読み、主題を的確にとらえて自分の物の見方や考え方を広くしようとしている。 (国語への関心・意欲・態度) ・文章に表れているものの見方や考え方をとらえ自分の物の見方や考え方を広くしている。(読む能力)	・発言の確認 ・自己評価

8 学校図書館の機能の活用

- 生徒が自ら学ぶ学習・情報センターとしての機能
 - ・「読書レシピ作り」を行う。
 - ・「読書レシピ作り」で紹介したい本を事前に一人一冊選んで読む。

9 本時の学習(1時間目)

(1) 本時の目標

- リテラチャーサークルを行うことでテキストについて多様な解釈を展開し、自分のものの見方や考え方を広くすることができる。【C読むこと オ】

(2) 本時の観点別評価規準

観点	評価規準
国語への関心・意欲・態度	・目的や意図に応じて文章を読み、主題を的確にとらえて自分の物の見方や考え方を広くしようとしている。
読む能力	・文章に表れているものの見方や考え方をとらえ自分の物の見方や考え方を広くしている。

(3) 本時の学習展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点	評 価 規 準	評価方法
導 入 (五分)	1 リテラチャーサークルについて知る。 2 本時の目標と学習課題について知る。	①自分の考えを広げるためにリテラチャーサークル行うことを確認させる。 ②学習課題を設定することで、本時の見通しを持てるようにする。		
主題の解釈を交流し、自分の考えを広げよう				
展 開 (四〇分)	3 「大きな木」の読み聞かせを聞く。 4 リテラチャーサークルを行う。 ・問1「あなたは少年が好きですか？嫌いですか？」 ・問2「あなたはリンゴの木が好きですか？嫌いですか？」について考え、ワークシートに記入する。 5 問1・2について意見交流を行う。 (グループ・全体) 6 問3「作者はあなたに何を伝えようとしていますか？」について考え、ワークシートの「自分の考え①」に記入する。 7 問3について全体で意見交流を行う。 8 問3について再度考え、ワークシートの「自分の考え②」に記入する	③物語を聞く視点を持たせる。 ・二人の登場人物(「りんごの木」「少年」)の言動に注目させる。 ④意見には必ず根拠を持たせる。 ・根拠は人物の言動等の叙述・描写など、文章中から考えさせる。 ⑤他者の意見を共感的に聞くことができるよう場を調整する。 ⑥どちらが正しいかではなく、多様な考えを受け入れることが大切であることを再度確認させる。 ⑦交流の場面では、記録はメモ程度とし、しっかり聞いて、しっかり話せるようにする。 ⑧■自分の考え①がもてなかった生徒には、他者の意見を参考にして意見を書かせる。	・目的や意図に応じて文章を読み、主題を的確にとらえて自分の物の見方や考え方を広くしようとしている。(国語への関心・意欲・態度) ・文章に表れているものの見方や考え方をとらえ自分の物の見方や考え方を広くしている。(読む能力)	・ワークシート ・発言の確認 ・ワークシート
言語活動の充実		生徒のまとめ例 (自分の考え2) 主題を「本当の幸せ」と考える。りんごの木は繰り返し「幸せ」と言っていたが、本当にそうなのかと思ったから。少年は自分の幸せのために木を失い、木は少年のために自分を失っている。 * 登場人物の言動を多面的に捕らえている。大きな木=良い、少年=悪いではない。		
ま と め (五分)	9 授業を振り返り、ワークシートに自己評価を記入する。 ・ワークシートと自己評価カードを提出する。 ・次回の学習内容を確認する。	⑨共感的な雰囲気ですべてを終える。 ⑩「空中ブランコ乗りのキキ」の学習でもリテラチャーサークルを行い、作品の主題を考えていくことを伝える。		・自己評価 ・ワークシート

① 次の文献中に示されたアイデアを参考にした。